

回文かるた

なあにいいにあ

な

な

first message from ISOS



*回文=上から読んでも下から読んでも同音の文章。

な

なあにィ！ 胃に穴？

医者であり作家でもある渡辺淳一氏が「愛、美学、感性は一代限りの知恵であり、本人が体験しないと覚えないものである」と述べています。確かに親が恋愛体験で得た知恵を子供が受け継ぐことは困難です。子供は子供で、自分で恋愛してみなければ、それがどういうものかはわかりません。ISO審査を受けるという行為にも、似たようなところがあります。

日本でISOの審査が始まってはや13年になろうとしています。いまだに審査当日に胃が痛くなったり、胃に穴が開いてしまったりするISO推進担当者の話をよく耳にします。当初に比べて、ISO関係の書籍やセミナーの数は格段に増えていますが、ISO審査を経験している事業所の数は3万件を超えています。ところが、担当者にとっては、いくらISO関連の情報が増えようとも、受審初体験のプレッシャーを和らげるまでには至らないようです。サイト内に受審経験者がいたり、コンサルタントが本審査に立ち会ってくれたりすれば、少しは精神的に楽かもしれませんが、そうでなくて受審未経験者ばかりで審査を迎える時は、やはり相当な重圧を感じるに違いありません。

ということは、受審の知恵も、やはり組織一代限りの知恵なのかもしれません。日本の組織の認証件数が何万件になろうとも、自分の組織が体験しない限り、受審の知恵は身に付かないからです。この知恵を身に付けるには、ある程度の苦痛を伴います。その苦痛が、組織全体で共有されていればいいのですが、担当者に一極集中してしまうと、「胃に穴」という現象が起こってしまうのです。